

たんぽぽとは・・・



新オレンジプランの7つの柱のなかには「若年性認知症施策の強化」が挙げられていますが、このオホーツク地域においては何も進んでいません。北海道内には、若年性認知症の本人と家族の会はありますが、その会に参加するにも長時間の移動や多額な交通費がかかり、諦めている方がいるという現実があります。また、まだ認知症を隠したい風潮も強く、若年性認知症の方は引きこもるか、高齢者と同じ公的サービスで体力を持て余しています。

厚生労働省の調査では、若年性認知症者の割合は、人口10万人あたり47.6人といわれています。このことから、オホーツク地域にも150名近い若年性認知症の方がいると推測されます。しかし、各市町村ではそれほど多い数ではなく、自治体での公的サービスも整備されにくく、もし整備されたとしても、公的サービスでは居住地以外のサービスは受けることができません。

そこで、居住している市町村に関係なく、オホーツク地域に住み、世間との交流や出来ることを諦めていた若年性認知症の方が、「やりたいこと」や「できること」が行え、生き活きと地域で暮らせるよう支援していくことを目的に有志で活動を開始しました。



【会の趣旨】

若年性認知症のある方の「できる」「やりたい」をサポートする

【活動目的】

- ・オホーツク医療圏にいる若年性認知症の本人が、やりたくてもあきらめていたことが実現できるよう支援する
- ・若年性認知症の本人や家族が地域で“あたりまえの生活”が営めるよう地域住民の認知症への理解を深める

*たんぽぽは、有志で結成されたボランティアグループです。今後は、北見高齢者110番の家や認知症疾患医療センターと協働して、さまざまな取り組みを行っていく予定です。あくまでご本人の主体性や想いを尊重し、できない部分を支援していければと考えています。こんな支援を望んでいるという声を聴かせてください